

◎寺田茜、山下郁、森田友理、保田剛志、梅林浩顕  
 (株)日本医学臨床検査研究所 本社検査部 臨床化学

【はじめに】5Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・躰を指し、安全できれいで働きやすい職場環境を築き仕事の効率を高める為の基本的活動である。5S活動を通してより働きやすい職場環境を構築することを目的とし、さまざまな活動に取り組んできた。その結果、業務改善のみならず職場環境に対する意識改革も得られたので報告する。

【活動方法および内容】日常の業務において個人で気づいたことをグループで共有し、検討後に改善を実行する方法で活動してきた。今回、活動の中より、3つの改善について報告する。

試薬・備品管理の視覚的改善  
 コントロール試料小分け分注作業改善  
 試薬架設改善

【結果】  
 冷蔵庫に試薬場所一覧表を貼り付けた結果、目的の試薬を探す時間が短縮された。コントロール試料等は、項目ごとに専用容器を用意することで取り出しやすくなり、LOT変更の際には専用容器内にLOT違いがわかる札をセットすることで在庫管理が容易になった。  
 コントロール試料の分注について明確なルールを作成し、必要な分量を無駄なく分注出来るようにしたことで、分注時間の短縮とコスト削減につながった。  
 試薬の架設場所に色別シールを貼ることで、どの試薬を架設するのかわかるようにし、過誤防止に役立った。

【まとめ】業務改善はISO取得以前から行っていることではあるが、「5S活動」とすることによって以前よりも意識的に整理整頓を行うようになり、もっと改善できることは無いかと常に考える習慣がついた。検査品質の向上には、個人だけではなく、検査に携わるもの皆がよりよい職場環境を目指し、問題点を見つけ、対策を実施する事が重要になる。5S活動は私たちにとってその手助けになる試みとなった。今後もこの活動を継続し、さらに働きやすい職場環境の構築を目指したいと考えている。

## インシデント報告から改善活動への実際 ～インシデントから学ぶこと～

◎田中淑公、奥山直樹、瀧本秀樹、大石治、木村洋一郎  
 株式会社 近畿予防医学研究所

【はじめに】  
 「インシデント」とは、現場で「ヒヤリ」としたり、「ハット」した経験など、結果的にアクシデントやトラブルには至らなかった事象で個々のインシデントの実態を把握しその防止策を考える上で重要な情報となる。インシデントの収集活動から改善活動への実際を報告する。

【インシデントの収集】  
 情報の収集と事実の把握を確実に実施することが最も重要であるがその出発点とも言えるインシデントの報告を定着させることが必要である。インシデント事例から事態を正しく認識し、そこから状況に応じた対応策を考え全体の取組として位置づけた。

【事例の分析】  
 個々の事例について分析してリスクの集中しているところを見つける。

【インシデントに対する改善立案】  
 個別の作業についてのインシデントであれば個別ルールを作成して周知するという手法もとれるが、部門間にまたがるような事例では部門間の協力体制が必要となる。

【改善状況の把握】  
 改善策を立案して初期段階は継続されているが時間経過とともに何かの理由で中止されていることや、初期の立案が変化していることがある。初期立案内容の維持状況を定期的に確認し時間経過後の妥当性について再度評価する。

【まとめ】  
 インシデント収集活動を全体的な取組として実施することによりトラブルに発展しない前にその対応策を考える。各部門の一人一人が意識して毎日の業務に向き合うことで少しでも安定した検査室を心がけたい。